杉原ルート

1 杉原記念館（杉原ハウス）
Vaižganto g. 30

第二次世界大戦開戦当時、日本総領事だった杉原千畝は大勢のユダヤ人の命を救うために何千枚ものビザを書きました。彼が過ごした領事館の建物（杉原ハウス）は2000年から小さな博物館として開かれ、日本人観光客だけでなく、多くの人が訪れる場所となっています。2008年には日本政府の援助を受け改築されました。また、ここは"命の外交官"杉原千畝基金の拠点でもあります。同じくユダヤ人たちのためにビザを書いたオランダ領事ヤン・ツヴァルテンディクの功績を紹介する特別展示もあります。

2 メトロポリス・ホテル
S. Daukanto g. 21

第二次大戦が始まってからしばらくすると、日本領事館が閉鎖され、杉原千畝は当時、非常に人気があったこのホテルで暮らし始めます。ここに滞在している間もホロコーストから逃れようとする人々のために、杉原はビザを書き続けました。2015年にはホテルの正面に杉原の記念プレートが設置されました。ホテルのそばにはマルティーナス・ガウパスが制作した「杉原千畝の思い出に」という名の３メートルの像があり、2020年にお披露目されました。この像は折り鶴が空に向かって旋回していく様子を表現しています。

3 カウナス鉄道駅
M. K. Čiurlionio g. 16

杉原千畝の記念プレートが飾られている現在の駅舎は第二次世界大戦の後に建てられたもので、以前の駅舎は戦時中に取り壊されてしまいました。それでも、日本政府からの命を受けて杉原がリトアニアを去ったのは、確かにこの場所からでした。彼は列車が駅を離れてゆくまさにその最後の瞬間まで、迫害から逃れようとする人々のためにビザを書き続けました。

4 カウナス・ピクチャーギャラリー
K. Donelaičio g. 16

前衛芸術のFLUXUS（フルクサス）運動の創始者であるユルギス（ジョージ）・マチュナスはカウナスで生まれました。マチュナスが幼少期に暮らした家の近くにあるこのギャラリーでは、日本人アーティストの靉嘔（あいおう）の作品「ブラックホール」を見ることができます。また、ここはTakao Satoの「マノ・マノ・シアター」のホームでもあり、ここに来れば多くのリトアニアとアジアの隠れた芸術作品と出会えることでしょう。FLUXUS展示室を観るだけでも訪れる価値は十分にあります。

5 ロムヴァ映画館
Laisvės al. 54

ソ連による占領の直後に建てられたリトアニアに現存する一番古い映画館のひとつで、アートシアター系や古典作品を中心に上映しています。約500席を有するこの大きな劇場は、時にはコンサートやコスプレショーの会場としても使われています。2015年１０月にはチェリン・グラック監督の映画『杉原千畝』』のワールドプレミアがこのロムヴァ映画館で行われました。

6 ネムナス島

ジョギングや犬の散歩の定番スポットであるこの中州はかつてカルメリーテス島と呼ばれ、1970年以前は不凍港として利用されていました。また、日本とリトアニアの友好の象徴として2003年に植えられた桜が、ひっそりと美しく咲いています。2018年にはカウナスで開催された催し「杉原ウィーク」の下で半ダースの桜の木が植えられ、カウナス日本友好公園と名付けられました。

7 悪魔の博物館
V. Putvinskio g. 64

面白半分で集め始めた個人のコレクションが、今では世界で唯一の悪魔博物館になりました。3000点以上の膨大な展示物の多くは、博物館の創立者であるアンタナス・ジミュジナビチュスの死後、コレクションに加えられました。悪魔の数々は、この博物館に感銘を受けた世界中の人々から送られたもので、キューバ、韓国、ウクライナなど世界の悪魔たちと共に日本の悪魔（鬼）も展示されています。

8 M.K.チュルリョーニス国立美術館
V. Putvinskio g. 55

この美術館は、10年にもわたる大がかりな改装工事を経て2016年末に完全に再開されました。広大なホールには20世紀初頭の世界的なリトアニア人画家及び作曲家、ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニスの作品が数多く展示されています。70年代に日本で人気となったヨナス・メカスのFLUXUS（フルクサス）映画のサウンドトラックで彼の名前や音楽に聞き覚えのある人もいるでしょう。館内の特別ホールではチュルリョーニスの音楽を聞くこともできます。運が良ければコンサートが開催されているかもしれません。

9 旧大統領官邸
Vilniaus g. 33

19世紀の中頃、最初の邸宅として建設されました。ヴィリニュスがポーランドに占領され、カウナスが一時的に首都になった際、この家は初代大統領の住居兼事務所となりました。ソビエトによる占領が迫った1940年6月14日の夜から15日かけて、ここでリトアニア政府最後の会議開かれました。現在はリトアニア独立の歴史を紹介するための博物館として利用されており、当時の政治的状況や人々の暮らしまで、簡潔かつ詳しく独立について知ることができます。

10 アウラダンスシアター
M. Daukšos g. 30A

アウラダンスシアターは25年以上もの間、地域におけるコンテンポラリー・ダンスの中枢を担ってきました。アウラ国際ダンスフェスティバルは、芸術ファンの間では秋の風物詩ともなっています。また、アウラのダンサーたちは様々な学際的プロジェクトに参加することでも知られています。過去には杉原ハウスのそばで桜に捧げるダンスを披露したこともあります。

11 アレクソタス展望台
Amerikos lietuvių g

2011年に日本が地震と津波の被害に遭った際、アレクソタス・ユルギス・ドブケビチュス学校の生徒たちは日本の子どもたちへの贈り物を作ることにしました。支援のシンボルとして学校の近くに植えられた松の木は、地域の人々の手によって現在まで大切に育てられています。松の木のすぐそばには、アレクソタスからのパノラマが広がり、近くにはレトロでおしゃれなケーブルカーもあります。撮り逃さないように、カメラの充電をお忘れなく。

12 第九要塞
Žemaičių pl. 73

シレイニエイ地区の北部の薄暗い場所は、ロシア帝国が都市を囲むように作らせた要塞の一部です。要塞は完全な状態ではありませんでしたが、様々な目的で使用されてきました。最初のソビエト占領下では刑務所や中継地がここに建設されました。ナチスが占領していた時代はユダヤ人や他の囚人がここで処刑されました。そのため、現在はホロコースト記念碑と博物館になっています。その中には杉原千畝に関する展示室もあります。

13 アジア研究センター
V. Putvinskio g. 23

リトアニアで最も古いアジア研究センター（asc.vdu.lt）の歴史は、1993年、ヴィータウタス・マグヌス大学で日本人初、そしてアジア人初の講師として教鞭をとった小島亮博士の時代にさかのぼります。センター自体は2000年に設立され、学術研究プロジェクトを含む日本関連のイベントをカウナスで行う際の最も重要な拠点となっています。.

14 リネン製品の店「ヨークス・ナマイ」
A. Juozapavičiaus pr. 21

シャンチャイ地区のタンク工場跡地にあるこの店には、高品質なオリジナルデザインのリネン製品がそろっています。製品の多くは日本人に向けて作られています。杉原千畝のスタンプ入りのリネン製品を買うこともできます！

15 ステポナス・カイリース記念碑
Aukštaičių g. 43

リトアニアで初めて日本に関する本を出版した技師のステポナス・カイリース（詳しくは「沿革」参照）の記念碑は、市営水道局カウノ・ヴァンデニースの前に建てられています。カイリースが1920年代に市の水道システムを構築した責任者でもあったためです。

16 ヴァルダス・アダムクス大統領図書館・博物館
S. Daukanto g. 25

アメリカで最初に作られたものを参考にして、ヨーロッパでも数少ない大統領図書館が作られました。リトアニアで最も愛されたヴァルダス・アダムクス大統領の功績の数々（2007年に当時の天皇（現上皇）リトアニア訪問の際に授与された勲章も含む）、写真、書籍などが保管されており、研究者のみならず、学生や市民にも開かれています。

17 ヤン・ツヴァルテンディク
Laisvės al. 42,
Memorial, Laisvės al. 29

フィリップス社のカウナス支局長だったヤン・ツヴァルテンディクは、1940年６月１９日、当時すでにナチス・ドイツに占領されていたオランダの領事に任命されました。それにより、外交官事務所をライスヴェス大通り42番地から同じ通りの29番地にあったフィリップス社のオフィスへと移すこととなります。その場所で、彼はユダヤ人難民のためにビザの発給を始めたのでした。オランダの国外領土だったキュラソー島へ行くには、どうしても経由地が必要となるため、彼は日本領事代理だった杉原千畝に日本通過ビザの発給を依頼しました。ツヴァルテンディクはその後、オランダへと戻りました。その勇敢な行動で数千人の命を救ったことから、死後に「諸国民の中の正義の人」の称号を授与されました。2018年６月、かつてツヴァルテンディクの事務所があった建物の前に、オランダ人アーティストのギニー・ヴォスによる光のインスタレーションと呼ばれる記念碑が設置されました。

18 P.マジーリス産院
V. Putvinskio g. 3

1940年5月28日、午後1時30分、外交官夫人の杉原幸子は、プラナス・マジーリス医師が経営するカウナスで最も近代的な私立病院に到着しました。病院に入ってから30分後、彼女にとって3番目の男の子、晴生が生まれました。家族から「クリちゃん」と呼ばれた男の子は、残念ながら1947年に亡くなってしまいます。その数年後、杉原家に4人目の男の子が生まれましたが、日本領事だった杉原千畝の一家はすでにカウナスを去った後でした。2006年、プラナス・マジーリス教授は死後、「諸国民の中の正義の人」に選ばれました。彼の名を冠した産院は今も健在で、何百ものカウナスの赤ちゃんの誕生を支えています。

IT'S KAUNASTIC

杉原ルート

沿革

カウナスが歴史上初めて言及されたのは1361年、その後すぐにマクデブルク法により自治権が認められました。1441年に交易・防衛の同盟であるハンザ同盟に加入しました。その後、リトアニア大公国はポーランドと共に一つの共和国に、そして18世紀後半にはロシア帝国の一部となりました。（ちなみにリトアニア語はロシア語のようなスラブ語派とは全く違うバルト語派というグループに属しており、リトアニア語がイタリア語と全く似ていないように、ロシア語とも非常に遠い関係にあります。）リトアニアの独立宣言は1918年に調印され、その2年後、ポーランドに占領された首都ヴィリニュスに代わってカウナスが首都となりました。第二次世界大戦の混乱の中、杉原千畝がカウナスで数千人の命を救うためにビザを書いていた頃、リトアニアはソ連に、ナチスに、再びソ連にかわるがわる占領され続け、1990年にようやく独立を回復しました。この独立が、ソビエト連邦の脆弱な構造に最初の亀裂を入れたのでした。

リトアニアと日本「一目見た時から...」

工学技士のステポナス・カイリースは　1918年のリトアニア独立運動に署名した活動家の一人でした。彼は日本へ旅をしたことはありませんでしたが、1906年の時点で、日本について初めてリトアニア語で書かれた本『日本の憲法』『日本の今と昔』などを出版しました。カイリースは1940年にリトアニア解放最高委員会の委員長となりますが、すぐに亡命を余儀なくされました。委員会本体もドイツ、そしてアメリカへと拠点を移し、亡命先でカイリースは偽名を使って暮らしました。死後、彼の遺体はカウナスに埋葬されました。スタシース・ジルグリスが設計したカイリース像は、カウナス水道局（オウクシュタイティア通り43番地- Aukštaičių g. 43）の入り口で見ることができます。また、ドネライティス通り77番地（K. Donelaičio g. 77）にあるカイリースの邸宅とフレダにある彼のサマーハウスの正面部分には、記念プレートが設置されています。2011年に日本で出版された『坂の上のヤポーニア』（平野久美子著）はカイリースの日本に対する強い思いについて書かれた一冊です。

こんにちは！

この地図を見れば、日本の外交官・杉原千畝にゆかりの深い場所がたくさん見つかります。カウナスの人々は「諸国民の中の正義の人」に選ばれ、世界的に認められた杉原の善い行いに、今までも、そしてこれからも感謝し続けることでしょう。カウナスの杉原ルートをめぐって、リトアニアと日本の心のつながりを感じていただけることを願っています。ここからは、楽しみ方のコツを紹介します。

発行：2018年、最終更新：2023年

公共交通機関

カウナスにはバス、トロリーバス、そしてケーブルカーがあります！

街で噂のミニバス、通称"微生物"は通常のバス料金よりも少しだけ高め。最近ミニバスの本数は少なくなっていますが、観光にはバスやトロリーバスだけでも十分でしょう。ちなみに街のほとんどのメインスポットには歩いて行けます。

自転車

この地図に載っているスポットを訪れるなら、ほとんどの場合自転車が最適です。自転車もスクーターもない？ぜひ「Bolt」のアプリをご利用ください。

お役立ちリンク

visit.kaunas.lt
sugiharahouse.com
#visitkaunas
#kaunastic

そのほか、デジタルでこのルートを見るなら次のウェブサイトをご参照ください。
kaunastika.lt

観光案内

「カウナス・イン（KAUNAS IN）」

VŠĮ „KAUNAS IN"
Laisvės al. 36 | +370 616 50991
info@kaunasin.lt |visit.kaunas.lt

戦間期モダニズム建築アプリをダウンロード！

リトアニアには、他では見られない独自の建築遺産を誇る二つの街があります。ヴィリニュスにはバロック建築が、そしてカウナスには1919年から1940年に盛んだったモダニズム建築があります。中でも、最盛期の優れた建築物は2015年に欧州委員会が選ぶ「欧州遺産レーベル（European Heritage Label）」を受賞し、2016年にはカウナスがユネスコ・デザイン都市にノミネートされ、2023年にはカウナス・モダニズムがユネスコ世界遺産リストに登録されました。カウナスを探索するなら、歩いて見て回るのがベストな方法でしょう。そんな時にピッタリの案内役があなたのスマートフォンの中にいます。アプリ「Kaunas of 1919-1940」はカウナスにある44のモダニズム建築を紹介。さらに街の中心部やジャリャカルニス、グリチュピス、アレクソタス、シャンチャイ地区を含む様々なルートを案内してくれます。

町へ出よう

19 カウナス国立劇場
Laisvės al. 71

リトアニアで最も古い劇場のひとつでありながら、最も近代的で保存状態の良い劇場がここです。初演はほぼ前売りで完売必至！近くにある人形劇場やミュージカル劇場のイベントと外観もぜひチェックしてみてください。演劇を見るなら、カウナス小劇場もあります。

20 カウナス国立フィルハーモニーホール
L. Sapiegos g. 5

この建物はもともと1920年代から30年代にかけて最も多忙な建築家のひとりであり、法務大臣だったエドムンダス・フリーカスが法務省の建物として設計したもので、リトアニアが独立を失った後に、音楽ホールとなりました。カウナス市交響楽団とカウナス市合唱団の本拠地で、毎週開催されるコンサートは当日券の購入も可能です。

21 バルタ・ギャラリー
Valančiaus g. 21

2000年にカウナスに設立されたテキスタイル・ギルドは、芸術的なテキスタイルの専門家や他分野のアーティストを束ねる存在です。バルタ・ギャラリーの活動は教育と訓練を主眼に置き、ギルドの創設者でカウナスのクリスマス・ツリーの独創的なアイデアでも知られるヨランタ・シュミデティエネが育成・コーディネートを行っています。

22 カウナス写真ギャラリー
Vilniaus g. 2

この写真ギャラリーは、現代アートの世界地図にカウナスを示すための重要な役割を果たしています。懐古的アートから革新的なものまで、頻繁に変わるテーマを楽しめます。

23 ケーブルカー
Amerikos Lietuvių g. 6, ir Aušros g. 6

フニクリ〜フニクラ〜！1930年代、町が急速に発展し始めた頃ケーブルカーは丘が多いカウナスにおいて非常に便利な乗り物でした。二つのケーブルカー、「ジャリャカルニス」と「アレクソタス」は現在も運行中。少しのチケット料金で写真のように美しい景色を一望できます。

24 キリスト復活教会
Žemaičių g. 31A

ラトビア人のカロリス・レイソナスが設計したバルト地域最大の大聖堂にはとても長い歴史があります。人々が資金を募り1930年代に始まった建設がようやく終わったのは、リトアニアが再び独立を勝ち取った後のこと。ソ連時代にはラジオの部品工場として使われていました。ここのテラスは訪れる価値ありです！

25 旧市庁舎
Rotušės a. 15

「白鳥」の愛称で親しまれる後期のバロック建築。以前は市長の家など様々な用途に利用されていましたが、現在はカウナス市の博物館として、訪れた人にカウナスのすべてをわかりやすく紹介しています。また、たくさんのカップルがここで結婚式を挙げ、毎年、冬には特別なクリスマスツリーが現れます。

見どころ

26 VMU植物園
Ž. E. Žilibero g. 6

およそ100年前にヴィータウタス・マグヌス大学に誕生したこの植物園では8851種もの植物たちと出会えます。絵画のように美しい池や建物は、17世紀に貴族が所有していたものが受け継がれています。

27 ヴィータウタス公園

カウナスの人々が何世代にもわたって色とりどりの回転木馬に揺られてきたこの公園は、無邪気な子ども時代を思い起こさせてくれます。今ではメリーゴーランドに代わって、ナラの林の空気と、木々の間に隠れた物語を味わうことができる場所になりました。

28 ジョージ・マチュナス広場

ドネライティス通り（**K. Donelaičio g.**）とパロダ通り（**Parodos g.**）とヴィータウタス大通り（**Vytauto pr.**）の交差点

上空からしか見ることのできない、立ち入ることのできないこの広場もまた、カウナスの魅力の一つです。作者はナギリス・リーティス・バルトゥシュニカス。この地で生まれたFLUXUS（フルクサス）の父ユルギス（ジョージ）・マチュナスに捧げられた作品です。

29 ペレドス（フクロウ）の丘
A. Mackevičiaus g. / J. Zikaro g.

美術学校というロマンティックな場所に設置されたフクロウの彫像は、著名なリトアニア人彫刻家ヴィンカス・グリーバスの作品。人々が丘の上に魅力を感じるのは、もしかしたら忘れられつつあるこのカウナスのシンボルのせいかもしれません。

グルメ

30 ドネライチョ
Donelaičio g. 66

レストランやバーは、通りの名前にちなんで店名をつけるのが最近のカウナスの流行りです。面白そうなインテリアやアートがいっぱいのカラフルな場所でありながら、伝統に倣っているのがこのお店。カウナス人ならノスタルジーを感じてしまう建物も魅力！

31 ヴィシュタ・プオデ
S. Daukanto g. 23

コンテンポラリーな北欧風か、それとも驚くほどにリトアニア風か、このレストランでは早朝メニューや北欧風にアレンジした地元料理を提供しています。メニューの種類は決して多くはないけれど、手間ひまかけて作っています。

32 スプルギネ
Laisvės al. 84

1960年代にオープンして以来、ほんの少しの改装を経て続いている安くておいしい「これぞドーナツ屋さん！」的お店。（アメリカ的なドーナツとは違いますよ。）店内は独立前のカウナスの雰囲気が垣間見えます。

33 ニューマン
Nemuno g. 43

歴史的なネムナス通りにあるこのレストランは、2017年にオープンしました。内装、ムード、香り、サービス、接客態度、そして、もちろん料理が融合したこの雰囲気に惹かれない人はいないでしょう。

34 ウオクサス
Maironio g. 28

店の名前は日本語で「キツツキの巣穴」。リトアニア料理の在り方をユニークな視点で模索するレストランです。現代的でありつつも「リトアニア料理ならこの場面で何を提供すべきか」という視点を常に大事にしています。

35 クルトゥーラ
K. Donelaičio g. 16

店名は「文化」を意味し、店内にはそのコンセプトにぴったりのバーがあります。カウナスピクチャーギャラリーの中にあり、ドネライティス通りが見渡せるステキなテラス席もあります。独特な内装は今あなたがどの時代に生きているのかを忘れさせてしまうかも。

36 モンテ・パチス
T. Masiulio g. 31

リトアニア最大の修道院で成熟したバロック建築の一つ、パジャイスリス。現在は高級ホテルとレストランとして利用されています。食事をしなくても、周辺やカウナス湾を散策するだけで十分に楽しめます。

37 メジョトユ・ウジェイガ
Rotušės a. 10

評判を聞かずとも「50年以上続く店」というだけでその味は十分想像できるでしょう。「狩人の宿」という名のこのレストランもその一つ。店名通りのメニューですが、ベジタリアンの方も安心して召し上がれます。旧市庁舎に面した店の場所もまた、人気の理由です。

38 やかた
M. Valančiaus g. 14

ネムナス川とネリス川、二つの川の合流地点のすぐ近く、カウナスの旧市街に、日本の商船「やかた」がやって来た！この店はカウナスで最初の小さな日本料理店。美食家さん、辛い物好きさん、珍しい物好きさんにはたまらないレストランです。

ショッピング

39 中央書店
（ツェントリニス・クニギナス）
Laisvės al. 81

この書店の見どころはその長い営業の歴史とソ連時代後期の印象的な内装です。一見の価値ありです。

40 クロネコ
Vilniaus g. 14

カウナスの旧市街でアジア文化を体験できる店です。店名の「KURO NEKO」はもちろん日本語の「黒猫」が由来です。こんな名前のホラー映画を見たことがある人もいるかもしれませんね。漫画、ゲーム、フィギュア、辛いラーメンに興味があるなら、大きめの買い物袋を持って行ってください。

41 ファーマーズマーケット
Jonavos g. 1

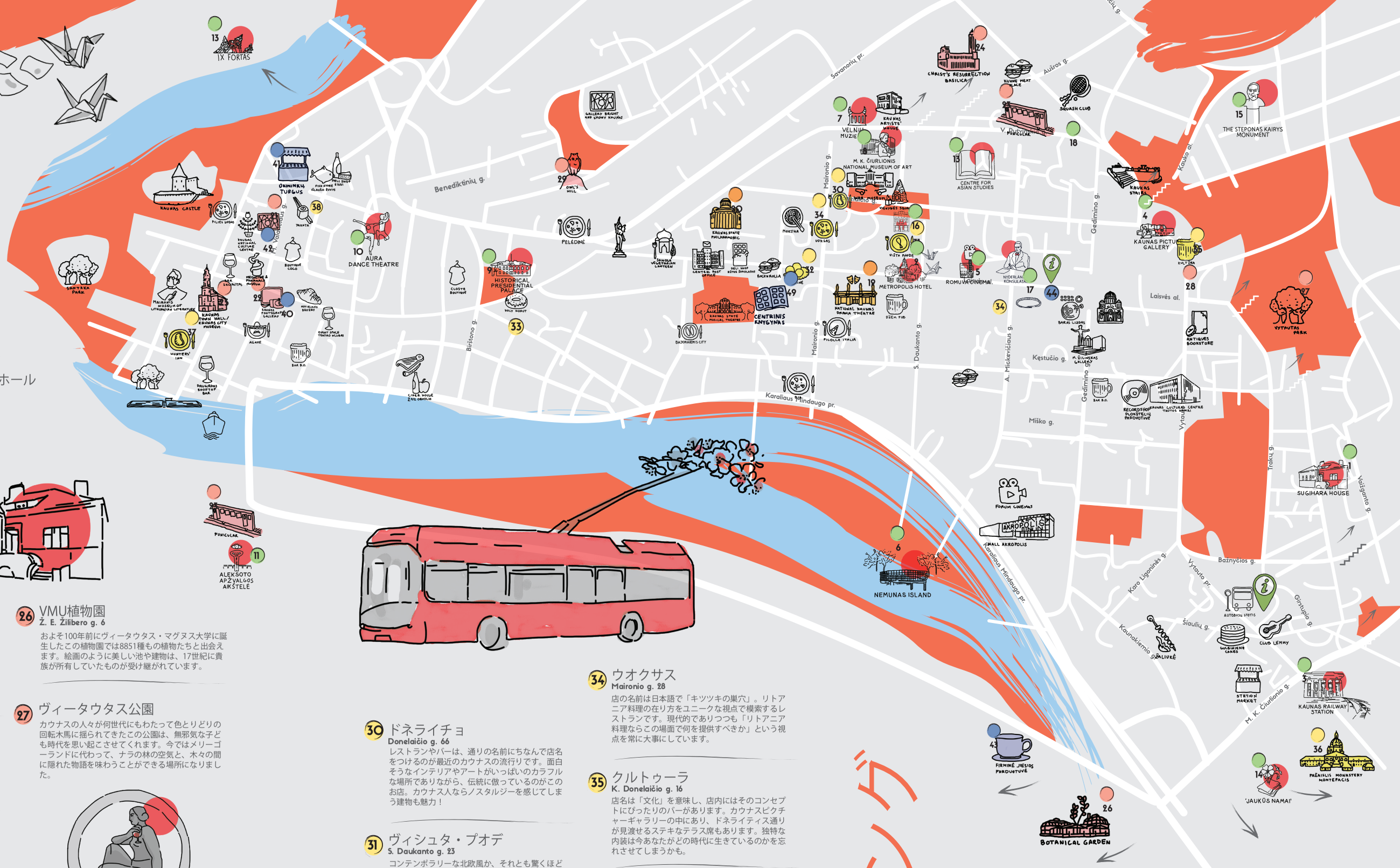
野菜、果物、ベリー類、肉、パンなど、農家から直送されたおいしいものが並ぶマーケット。土曜日午前8時から午後4時まで、カウナス城のすぐそばで開催。

42 ヴァランチュス通り
M. Valančiaus g.

旧市庁舎前広場からカウナス城を結ぶこの通りは、カウナスの「ブティック通り」と呼ばれています。ブティックやアート・ギャラリーが軒を連ね、一日中観光した後、自分へのご褒美に立ち寄るのにぴったりの場所です。同じ通りにはおしゃれなレストランも並んでいます。

43 イエシア工場直売店
Europos pr. 114

カウナスは、実は近代リトアニア陶磁器発祥の地です。現在、リトアニア陶磁器の博物館にはご案内できませんが、代わりにアレクソタスに行けば、歴史ある陶磁器工場「カウノ・イエシア」で本物のカウナスらしいお土産を選ぶことができます。

44 観光案内所
Laisvės al. 36

あらゆるカウナスらしいお土産が揃っているのでぴったりのお土産が見つかるはずです。